

往**bunka**来



「モダンアート展・熊本」事務局長の星加民雄さん(63) = 崇城大准教授 モダンアート協会の公募展が熊本に初めて巡回します。会場は県立美術館分館(熊本市中央区)で、8日から13日まで。受賞作や会員の作品など113点(うち15点は県在住者の作品)が並

びます。いずれも、形式にとらわれず新しい表現に取り組んだ平面や立体作品です。不要なものをそぎ落として、展示空間を洗練された雰囲気にするアートのほか、社会風刺や自然災害など現代をテーマにした作品もあります。熊本地震からの復興支援の企画で、入場は無料です。洋服店で好みの服を選ぶように、お気に入りの1点を見つけてもらえたらうれしいです。

(中原功一朗)

2018年5月4日 熊本日日新聞 P.21



さまざまなモダンアートが並ぶ県立美術館分館の会場。左端はオオミダイゾーさんのモノクロ絵画

熊本市中央区

モダンアート 113点並ぶ

絵画や彫刻 県内初開催

モダンアート展・熊本が8日、熊本市中央区の県立美術館分館で始まった。東京で4月にあった第68回モダンアート展の巡回展で、県内開催は初めて。13日まで。

美術団体のモダンアート協会(埼玉県)が、熊本地震からの復興を支援しようと企画した。形式にこだわらず、色彩や素材、形に工夫を凝らした

絵画や彫刻など、会員らのアート作品113点が並ぶ。

オオミダイゾーさん(神奈川県)の作品は、写真合成の技術を使ったモノクロの絵画。草に埋もれた牛の頭骨などを表現し、東京電力福島第1原発事故の悲惨さを静かに訴える。

尾崎ゆみさん(東京都)は、銅版画の25枚のパネルを、銀色の金属板などでさまざまな模様を飾り、タイルのようにして壁に掛けた。

県内からは15人が出展。二子石義之さん(合志市)の抽象画は、グレーや黒、白で17本の線を表現。作為性を除くため、一部は目をつぶって描いたという。

(中原功一朗)

県美分館 13日まで

2018年5月9日 熊本日日新聞 P.17